

2023年7月7日

各 位

JX金属株式会社

電気銅のカーボンフットプリントの算定と、算定結果の第三者保証取得について

JX金属株式会社(社長:林 陽一、以下「当社」)は、当社グループの拠点で生産された電気銅のカーボンフットプリント(Carbon Footprint of Products, CFP)を算定し、その結果について、日本の銅製錬事業者では初となる第三者保証を取得しました。これは、当社が昨年8月に発表した“サステナブルカッパー”^(※1)の進化と普及に向けた施策の1つであり、自動車、半導体・情報通信など多様な分野において必要不可欠である銅の「安定供給」と「ESGを重視した生産と供給」の両立に向けた取り組みとなります。

今回の取り組みにおいては、JX金属グループの佐賀製錬所および日立事業所の一連のプロセスで2021年度に製造された電気銅について、Cradle to Gate(原材料調達から出荷まで)の電気銅1kgあたりの温室効果ガス排出量を、主として国際的な算定・報告の基準のひとつであるGHGプロトコルに則って算定するとともに、その算定結果について、第三者認証機関であるDNVビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社より保証を得たものです。

今後、当社グループが生産する電気銅のお客様を対象に、算定結果の開示を行う予定です。これに加え、このたびの算定結果を踏まえ、マスバランス方式^(※2)を用いた低CFP・高リサイクル率などの環境価値の高い電気銅の供給について、グリーン・イネーブリング・パートナーシップ^(※3)に参加する各企業との間で協議を進める予定です。

今後も当社は先端素材、金属製錬、リサイクル、資源開発の一貫した事業運営の中で、“サステナブルカッパー・ビジョン”で掲げる様々な施策を通じ、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

以上

※1 「サステナブル銅・ビジョン」の詳細は、2022年8月3日付プレスリリース「[「サステナブル銅・ビジョン」の策定について](#)」および同リリース別紙「[サステナブル銅・ビジョン JX金属が目指すサステナブルな銅の姿](#)」をご覧ください。なお、同ビジョンでは、以下の4つの施策を推進する姿勢を掲げています。

<p>1 CFPの削減</p>  <p>鉱石の採掘や輸送等の バリューチェーンに関連するCFPの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 鉱山で使用する建機の電動化 ● 再生エネルギーの利用 ● 輸送の効率化・最適化等 	<p>2 リサイクル比率の向上</p>  <p>銅製品のリサイクル原料比率を高める技術 の開発と原料集荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リサイクル原料処理に関わる技術開発 ● リサイクル原料の増集荷に向けた設備能力の増強等
<p>3 責任ある調達とその他施策の推進</p>  <p>サステナブルソーシングを含めた 幅広いESG施策への取り組みと認証取得</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地球環境保全、人権、地域社会貢献等を配慮・促進する施策の推進 ● ICA (国際銅協会) の定めるESG基準を満たすCopper Mark[®]等認証の取得推進 	<p>4 グリーン・イネープリング・パートナーシップの形成</p>  <p>サステナブル銅の進化と普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サステナブル銅の普及に向けて協働いただける企業等とパートナーシップを形成し、脱炭素社会・循環型社会への移行を加速 ● パートナーとの製品・スクラップ回収、原料再利用、共同技術開発の促進等

※2 ある特定の性質を持つ原料の投入比率に応じて、製品の一部を「その原料に由来する特性を持つ」と見なす考え方です。

※3 「サステナブル銅・ビジョン」で提唱している、銅の生産・利用・リサイクルに関わる企業等との、脱炭素・資源循環の促進を目的とした業種横断型のパートナーシップの事です。

参考;製品のカーボンフットプリントの算定に関する情報

対象製品	電気銅
生産期間	2021年4月1日～2022年3月31日
生産場所	JX金属株式会社 日立事業所 及びJX金属製錬株式会社 佐賀関製錬所
対象のライフサイクルステージ	Cradle to Gate (原材料調達から出荷まで)